

ホクコーオーソサイド®水和剤 80

■種類名：キャプタン水和剤
 ■有効成分：キャプタン-----80.0%
 ■化管法指定物質：キャプタン [第1種] -----80.0%
 ポリ(リンフェニル)アルキルフェニル (アルキル基の炭素数が9のものに限る。) [第1種] -----1.0%

■登録番号：第24955号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：2025.3.12
 ■性状：類白色水和性粉末
 ■有効年限：5年
 ■包装：500g×20袋、1.25kg×12袋
 1kg×10袋(北海道のみ)

【特長】

- 広範囲の病害に安定した予防効果を示す園芸用殺菌剤。
- りんご、なし、ぶどう、もも、うめなどの果樹類、ナス科、ウリ科などの果菜類、小麦、ばらなどの花き類まで適用作物も幅広い。
- 散布剤としての用途のほか、種子消毒などにより腐敗病や苗立枯病などの土壌病害にも有効である。

【適用内容】(2025年3月12日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	キャプタンを含む 農薬の総使用回数
小麦	赤かび病、葉枯症 ふ枯病	600～1000	60～ 150 ℓ /10a	収穫 14 日前 まで	4 回以内	散布	4 回以内
	黒変病、黒点病	1000～1500					
りんご	黒星病	600～1000		収穫前日まで	6 回以内		6 回以内
	黒点病	800～1200					
	斑点落葉病、輪紋病 褐斑病、すす点病 すす斑病	600～800					
	炭疽病	800					
なし	赤星病、黒星病、輪紋病	600～1000		収穫 3 日前 まで	9 回以内		9 回以内
	疫病	1000			5 回以内		5 回以内
おうとう	褐色せん孔病、灰星病 炭疽病	800		発芽前	4 回以内		4 回以内
もも	縮葉病	600		収穫 21 日前 まで	3 回以内		3 回以内
	黒星病	800～1000					
小粒核果類	すす斑病	800		収穫 30 日前 まで	6 回以内		5 回以内 (生育期は 2 回以内、 収穫終了後～落葉期 までは 3 回以内)
	晩腐病、褐斑病 灰色かび病、べと病 枝膨病、黒とう病						
マルメロ	黒点病	1000		収穫 14 日前 まで	2 回以内		4 回以内
ブルーベリー	斑点病	500～1000		収穫 21 日前 まで	4 回以内		3 回以内
	すす点病、灰色かび病	500					
くるみ	炭疽病、褐斑病	800		収穫 7 日前 まで	3 回以内		5 回以内
パイナップル	根腐萎凋病	500					
パパイア	炭疽病、黒腐病	600		収穫 14 日前 まで	5 回以内		5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種後は 5 回以内)
マンゴー	炭疽病						
かき	落葉病、炭疽病 すす点病	1000	100～ 300 ℓ /10a	収穫 7 日前 まで	5 回以内	5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内)	
はくさい	黒斑病、白斑病 苗立枯病	600～1200					
	べと病、炭疽病	600					
トマト	疫病	800～1200	100～ 300 ℓ /10a	収穫前日まで	5 回以内	5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内)	
	葉かび病、灰色かび病	800					
きゅうり	炭疽病、褐斑病、つる枯病	600～800	100～ 300 ℓ /10a	収穫前日まで	5 回以内	5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内)	
	べと病	600					

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用 用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	キャプタンを 含む農薬の 総使用回数
すいか メロン	べと病、つる枯病	600	100～ 300 ㍓ ² /10a	収穫 14 日前 まで	5 回以内	散布	5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内)
	炭疽病	400～800					
しろうり かぼちゃ	べと病	600					
	炭疽病	400～800					
たまねぎ	灰色かび病、白色疫病 苗立枯病、軟腐病	600		収穫前日まで			
葉たまねぎ	灰色かび病、白色疫病 苗立枯病			収穫 7 日前 まで			
しょうが	白星病			収穫 3 日前 まで	2 回以内		5 回以内 (塊茎粉衣は 1 回以 内、灌注は 2 回以内、 散布は 2 回以内)
いちご	灰色かび病、炭疽病 芽枯病	800		収穫開始 14 日前まで	5 回以内		5 回以内
いんげんまめ	炭疽病	600～1200		収穫 30 日前 まで	2 回以内		3 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)
ごぼう	黒斑病	800	収穫 14 日前 まで	5 回以内	6 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種後は 5 回以内)		
花き類・ 観葉植物 (ばら、りんどう、 せんにちこう、コ スモス、ひまわり、 シネラリア、スイ トピー、みやこわ すれ、アンスリウ ム、斑入りアマド コロを除く)	茎腐病、立枯病 苗立枯病	600	—	8 回以内	8 回以内		
ばら	黒星病	800					
	茎腐病、立枯病 苗立枯病	600					
りんどう	葉枯病、茎腐病 立枯病、苗立枯病						
せんにちこう	斑葉病、茎腐病 立枯病、苗立枯病						
コスモス	そうか病、茎腐病 立枯病、苗立枯病						
ひまわり	べと病、黒斑病 茎腐病、立枯病 苗立枯病						
シネラリア	褐斑病、茎腐病 立枯病、苗立枯病						
スイトピー	腰折病、茎腐病 立枯病、苗立枯病						
みやこわすれ アンスリウム	根腐病、茎腐病 立枯病、苗立枯病						
斑入りアマドコロ	斑点病、茎腐病 立枯病、苗立枯病						
ゆきやなぎ	苗立枯病	1000	200～ 700 ㍓ ² /10a	発病初期			
せんりょう	炭疽病	600					
芝	葉腐病 (ブラウンパッチ)	300～500	0.5～2 ㍓ ² /m ²				
		500～800	1～2 ㍓ ² /m ²				
	赤焼病	300～800					

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	キャプタンを 含む農薬の 総使用回数
西洋芝 (ベントグラス)	炭疽病	300～500	0.5ℓ ㎡	発病初期	8回以内	散布	8回以内

作物名	適用病害名	希釈倍数 又は使用量	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	キャプタンを 含む農薬の 総使用回数
せり科葉菜類 (せりを除く) とうがらし類 オクラ	苗立枯病	800 倍	2 ℓ/㎡	は種後から 2～3 葉期 まで	2 回以内	灌注	3 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)
トマト、きゅうり なす、メロン すいか、しろり かぼちゃ		種子重量の 0.2～0.4%	—	は種前	1 回	種子粉衣	5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内)
		800 倍	2 ℓ/㎡	は種後から 2～3 葉期 まで	5 回以内	灌注	
ピーマン		種子重量の 0.2～0.4%	—	は種前	1 回	種子粉衣	2 回以内 (種子粉衣は 1 回以内)
		800 倍	2 ℓ/㎡	は種後から 2～3 葉期 まで	2 回以内	灌注	
しょうが	根茎腐敗病	塊茎重量の 2 %	—	植付前	1 回	種子粉衣	5 回以内 (塊茎粉衣は 1 回以内、 灌注は 2 回以内、 散布は 2 回以内)
		400 倍	3 ℓ/㎡	収穫 30 日 前まで	2 回以内	灌注	
チューリップ	青かび病	800～ 1000 倍	—	球根掘取時 及び植付時	8 回以内	球根浸漬	8 回以内
アイリス		植付前		30 分間 球根浸漬			
ゆり	腐敗病	400 倍			植付前 または 貯蔵前	1 回	
野菜類 (いも類を除く)	ピシウム・ リゾクトニ ア菌による 病害 (苗立枯病等)	種子重量の 0.2～0.4%		は種前			
飼料作物							
未成熟 とうもろこし							
花き類・観葉植物							
							8 回以内

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の 使用回数	使用 方法	キャプタンを含む 農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
西洋芝 (ベントグラス)	藻類 コケ類	芝生育期 (雑草発生初期)	1～2g/㎡	0.5ℓ/㎡	8回以内	散布	8回以内

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきることを。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液等のアルカリ性薬剤及びマシン油剤との混用はさけること。
- りんごの斑点落葉病に対して、後期の多発時では効果が劣ることがあるので、初期の防除を主体とすること。黒点病、黒星病などとの同時防除に使用するのが有効である。
- パイナップルの根腐萎凋病防除に使用する場合は、植付後1ヵ月以内及びその後発生をみたら直ちに、散布液が株元の土壌にも浸透するように散布すること。
- おうとうに使用する場合、5月下旬以降の散布には、固着性の強い展着剤を加用しないこと。
- ももの縮葉病防除に使用する場合は、発芽後の若葉には薬害のおそれがあるので、必ず発芽前に散布すること。
- うめに対する高温時の散布は、薬害を生じるおそれがあるので、5月下旬以降の防除は高温時をさけて散布すること。
- チューリップに使用する場合は、球根の土をよく落とし、15分間位浸漬すること。
- いちごに対する高温時の散布は、薬害を生じるおそれがあるので、夏期の防除は高温時をさけて、朝夕などの涼しい時に散布すること。

- ぶどうに使用する場合、幼果期～袋掛けまでの散布は、果粉の溶脱や果実の汚染を生じることがあるので十分注意すること。
- マンゴーに使用する場合、着色期以降の散布では果実に汚れを生じることがあるので十分注意すること。
- ブルーベリーに使用する場合、果実肥大期以降の散布では果実に汚れを生じることがあるので十分注意すること。
- コケ類に対して使用する場合は、散布時期を逸しないよう発生初期に本剤を散布し、十分な効果が得られない場合には、14日前後の間隔で反復処理を行うこと。
- 本剤を使用したつまみ菜、間引き菜等の幼植物は食用に供さないこと。
- カラー及び花はすに使用する場合は、湛水状態で使用しないこと。また使用後14日間は入水しないこと。
- 本剤で塊茎粉衣処理した種しゅうがは食料や動物飼料として用いないこと。また、収穫時には新しゅうがと塊茎粉衣処理した種しゅうがを分別し、塊茎粉衣処理した種しゅうがは確実に廃棄すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲、誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 本剤は眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 薬液調製時及び使用の際は保護眼鏡、農業用マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- ❖ 夏期高温時の使用をさけること。
- ❖ 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池周辺での使用はさけること。
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。



作成日 1995年02月22日
改訂日 2024年11月14日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ホクコーオーソサイド水和剤80
整理番号	1090-23
供給者の会社名称	北興化学工業株式会社
住所	〒103-8341 東京都中央区日本橋本町一丁目5番4号
担当部門	企画部 環境安全チーム
電話番号	03-3279-5151
FAX番号	03-3279-5195
緊急連絡電話番号	03-3279-5151
推奨用途	農薬(殺菌剤)
使用上の制限	推奨用途以外の使用はしないこと

2. 危険有害性の要約 化学品のGHS分類

健康有害性	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分1 生殖細胞変異原性 区分2 発がん性 区分1A 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(呼吸器 腎臓 免疫系)
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性) 区分1 水生環境有害性 長期(慢性) 区分1 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語	危険
危険有害性情報	H318 重篤な眼の損傷 H341 遺伝性疾患のおそれの疑い H350 発がんのおそれ H373 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器、腎臓、免疫系の障害のおそれ H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性
注意書き	
安全対策	使用前に取扱説明書を入手すること。(P201) 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202) 粉じんを吸入しないこと。(P260) 環境への放出を避けること。(P273) 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)
応急措置	眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338) ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。(P308+P313) 直ちに医師に連絡すること。(P310)

	保管 廃棄	気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314) 漏出物を回収すること。(P391) 施錠して保管すること。(P405) 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)
他の危険有害性 重要な徴候及び想定される非常事態の概要		情報なし 情報なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名又は一般名

混合物
キャプタン水和剤

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
N-トリクロメチルオテトラヒドロフタルイミド (一般名 キャプタン)	80.0%	$C_9H_8Cl_3NO_2S$	(5)-94、 (9)-934	8-(1)-635	133-06-2
鉱物質微粉等	20.0%	-	-	-	-
ポリ(オキシエチレン)ニルフェニルエーテル	1.0%	-	(7)-172	(10)-296	9016-45-9
結晶質シリカ(石英)	< 10%	SiO_2	(1)-548	既存	14808-60-7
非晶質シリカ	1.0%	SiO_2	(1)-548	既存	112926-00-8

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪いときは、医師に連絡する。
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹸で洗うこと。 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診察、手当てを受ける。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。 眼の刺激が続く場合は、医師の診察、手当てを受ける。
飲み込んだ場合	直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	情報なし
応急措置をする者の保護に必要な注意事項 医師に対する特別な注意事項	ばく露による二次災害の防止。 情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水
使ってはならない消火剤	火災が周囲に広がるおそれがあるため、直接の棒状注水を避ける。
火災時の特有の危険有害性 特有の消火方法	火災時に有害ガスが発生するおそれがある。 消火作業は風上から行う。 火元への燃焼源を断ち消火剤を使用して消火する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

周辺火災の場合、周囲の設備などに散水して冷却し、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移動する。
消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。
消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
漏出した場所の付近に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。
作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

少量の場合は、電気掃除機、ほうき等で掃き集める。
火花を発生しない安全な用具を使用する。
大量の場合は、漏出したものをすくいとり、又は掃き集めて、紙袋又はドラム缶等に回収する。
回収後の少量の残留物は、土砂又はおがくず等に吸収させる。

二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。

接触回避
衛生対策

『10. 安定性及び反応性』を参照。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする事。
作業衣を家に持ち帰ってはならない。

保管

安全な保管条件

涼しい所／換気の良い場所で保管すること。
容器を密閉して保管すること。

安全な容器包装材料

国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
鉱物性粉じん	$E = 3.0 / (1.19Q + 1)$ E 管理濃度 (mg/m ³) Q 遊離けい酸含有率(%)	0.03 mg/m ³ (吸入性結晶質シリカ)	TWA 0.025 mg/m ³ (吸入性結晶質シリカ)

設備対策

取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。
取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

保護具

呼吸用保護具

防じんマスク

手の保護具

保護手袋

眼の保護具

保護眼鏡(側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

皮膚及び身体の保護 保護服、保護長靴
護具

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	固体(粉末)
色	類白色
臭い	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	8.4(×5)
動粘性率	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
その他のデータ	見掛け比重 0.28

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	通常の貯蔵・取扱いにおいて安定である。
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	直射日光、高温、多湿
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	通常の条件下では生成しない。 加熱や燃焼により分解し、有害ガスが発生するおそれがある。

11. 有害性情報

急性毒性	経口	ラット(雌) LD ₅₀ > 2,000 mg/kg (1)
	経皮	ラット(雄) LD ₅₀ > 2,000 mg/kg (1)
		ラット(雌) LD ₅₀ > 2,000 mg/kg (1)
皮膚腐食性／皮膚刺激性		皮膚刺激性試験(ウサギ)：刺激性なし (1)
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性		眼刺激性試験(ウサギ)：刺激性あり (1)
呼吸器感受性又は皮膚感受性		皮膚感受性試験(モルモット)：陰性
生殖細胞変異原性		混合物は区分2の結晶質シリカ(石英)を1.0%以上含有し、混合物としては区分2に該当する。
発がん性		混合物は区分1Aの結晶質シリカ(石英)を0.1%以上含有し、混合物としては区分1Aに該当する。
生殖毒性		データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		混合物は区分1(呼吸器、腎臓、免疫系)の結晶質シリカ(石英)を1.0%以上10%未満含有し、混合物としては区分2(呼吸器、腎臓、免疫系)に該当する。
誤えん有害性		データなし

12. 環境影響情報

生態毒性	魚類 : コイ	LC ₅₀ (96h)	0.7250 mg/L (1)
	甲殻類: オオミジンコ	EC ₅₀ (48h)	3.5364 mg/L (1)
	藻類 : 緑藻	ErC ₅₀ (0-72h)	36.926 mg/L (1)
残留性・分解性		データなし	
生体蓄積性		データなし	
土壤中の移動性		データなし	

オゾン層への有害性

データなし

13. 廃棄上の注意
残余廃棄物

汚染容器及び包装

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
容器は、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意
国際規制

海上規制情報
UN No.
Proper Shipping Name
Class
Sub Risk
Packing Group
Marine Pollutant

IMOの規定に従う。
3077
ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.
9
-
III
Applicable
ICAO/IATAの規定に従う。

航空規制情報
UN No.
Proper Shipping Name
Class
Sub Risk
Packing Group

3077
ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.
9
-
III

国内規制

陸上規制
海上規制情報
国連番号
品名
クラス
副次危険
容器等級
海洋汚染物質
航空規制情報
国連番号
品名
クラス
副次危険
等級

非該当
船舶安全法の規定に従う。
3077
環境有害物質(固体)
9
-
III
該当
航空法の規定に従う。
3077
環境有害物質(固体)
9
-
3

特別の安全対策

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

緊急時応急措置指針番号

171

15. 適用法令
農薬取締法
労働安全衛生法

登録番号 第10529号
名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条)
キャプタン
結晶質シリカ
非晶質シリカ(シリカゲル及び沈降シリカに限る。)(2026年4月1日以降)
ポリ(オキシエチレン)＝ノニルフェニルエーテル
(2026年4月1日以降)
名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2)
キャプタン
結晶質シリカ
非晶質シリカ(シリカゲル及び沈降シリカに限る。)(2026年4月1日以降)

化学物質排出把握管理促進法	ポリ(オキシエチレン)＝ノニルフェニルエーテル (2026年4月1日以降)
	がん原性物質(安衛則第577条の2)
	結晶質シリカ
	皮膚等障害化学物質等(則第594条の2)
	第1種指定化学物質
船舶安全法 航空法	キャプタン
	ポリ(オキシエチレン)＝アルキルフェニルエーテル(アルキル基の炭素数が9のものに限る。)
	有害性物質 その他の有害物質

16. その他の情報

引用文献 (1) アリスタライフサイエンス株式会社 オーソサイド水和剤80 安全データシート 改訂日2019年11月18日 第9版

記載内容の問合せ先	会社名	北興化学工業株式会社
	担当部門	企画部 環境安全チーム
	電話番号	03-3279-5151
	FAX番号	03-3279-5195

急性中毒に関する緊急の問合せ先

公益財団法人 日本中毒情報センター(事故に伴い急性中毒のおそれがある場合に限る)

中毒110番 365日 24時間対応

一般市民専用電話(情報料無料) (大阪) 072-727-2499

(つくば) 029-852-9999

医療機関専用有料電話(1件2,000円) (大阪) 072-726-9923

(つくば) 029-851-9999

医療機関の方が一般市民専用電話を使用された場合も、情報料 1件につき2,000円を徴収します。

注意事項

本データシートは作成年月日での製品情報を記載しておりますが、すべての情報を網羅しているものではありません。新たな情報を入手した場合には追加又は訂正されることがあります。記載されている内容は、安全な取扱いを確保するための情報であり、いかなる保証をなすものではありません。特殊な条件下で使用するときは、その使用状況に応じた安全対策が必要となります。